



# 歴史認識と歴史教育



— 歴史教科書をめぐる議論とドイツ-ポーランド接近の道 —

## Geschichtsbewusstsein und Geschichtserziehung – Kontroversen um Geschichtsbücher und das Beispiel der deutsch-polnischen Annäherung

2007年12月1日(土)13時~18時 / 1. Dezember (Sa) 2007, 13.00~18:00

関西大学(大阪府 吹田市)千里山キャンパス尚文館1階AV大教室  
Shobunkan 1F, Kansai University, Senriyama Campus, Suita-shi/Osaka  
[http://www.kansai-u.ac.jp/English/about\\_ku/senri\\_map.html](http://www.kansai-u.ac.jp/English/about_ku/senri_map.html)

使用言語: 日本語・ドイツ語(日本語訳付) / Sprachen: Japanisch und Deutsch (mit Übersetzung)

### 講演者および演題

・ファルク・ピンゲル (ゲオルク・エックハート国際教科書研究所副所長)

「二国間の『教科書外交』から多国間の教科書研究へ」

**Dr. Falk Pingel, Georg-Eckert-Institut, Braunschweig/Germany**

***Von bilateraler „Schulbuchdiplomatie“ zu multilateraler Schulbuchforschung***

・ウオジミエ・ボロジエイ (ワルシャワ大学 歴史学部教授)

「1972年から2007年におけるドイツ-ポーランド教科書委員会」

**Prof. Dr. Włodzimierz Borodziej (Uniwersytet Warszawski)**

***Die Deutsch-Polnische Schulbuchkommission 1972-2007***

・高嶋伸欣 (琉球大学 教育学部教授)

「日本における最近の歴史教科書問題—アジアとの共生の視点から」

**Prof. Nobuyoshi Takashima (Univ. Ryukyu, Okinawa)**

***Aktuelle Schulbuchprobleme in Japan - aus der Perspektive des  
Zusammenlebens mit den asiatischen Ländern***

日本の歴史教科書は特に近・現代の記述をめぐり中国・韓国等、近隣諸国から批判を受けてきた。国際化が現実に進む今日、この問題は近隣諸国との友好を深めることができるか否かを左右することのひとつといっても過言ではない。ヨーロッパでは二度の世界大戦や国境を越えた人の動きの増大、さらには欧州統合へ進む過程で国際的に共有できる教科書づくりの努力が積み重ねられてきた。ドイツ・フランス、ドイツ・ポーランドなどがその例である。苦難と困難に満ちた歴史を共同で明らかにし、接近と和解の途を探り、その成果を次の世代へ手渡すためである。今回のシンポジウムでは、ドイツ・ポーランドの経験を中心に、日本やアジアでの国境を超えたアイデンティティ形成の問題も含めて歴史教育の可能性について論じる。多数のご来聴を期待する。プログラム等、詳細は以下を参照：

関西大学人権問題研究室 <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>

大阪ドイツ文化センター <http://www.goethe.de/ins/jp/osa/ja2626006.htm>

連絡先：関西大学人権問題研究室 Tel:06-6368-1182 E-mail:jinkenken@jm.kansai-u.ac.jp